

亀田地区公民館運営審議会 会議概要

1 開催概要

- (1) 名称 第9期 第3回 亀田地区公民館運営審議会
- (2) 日時 令和6年7月22日(月) 午前10時00分～午後0時15分
- (3) 会場 亀田地区公民館 多目的ルーム1・2
- (4) 出席者(敬称略)
 - ①委員 阿部菜月、飯原清仁、遠藤由美、大橋正治、小野幸男
齋藤真人、齋藤裕、坂井幸恵、弦巻真里枝(五十音順)
(欠席) 植木京子
 - ②事務局 【亀田地区公民館】立川正史(館長)、鈴木直美
【曾野木地区公民館】天野泰伸(館長)
【横越地区公民館】山本英二(館長)
- (5) 傍聴者 0人

2 審議内容

※新潟市公民館事業の基本方針説明

- (1) 令和5年度事業報告(事業評価)について(亀田・曾野木・横越)
- (2) 令和6年度事業計画について(亀田・曾野木・横越)
- (3) 公の施設に係る受益者負担の見直しについて
- (4) 今後の運営審議会について
- (5) その他

3 概要(意見・質問事項)

～事業報告について～

○曾野木地区公民館に関して、正月の地震で公民館自体の被害はどうであったか。また事業を運営する上で影響はなかったか。

→外構や駐車場部分が波をうったり、陥没したりしている箇所が多数あり、今もセーフティーコーンやバーが置かれている状況。敷地の修繕については工事の見込みが立っていない。今後10月末までに屋上の防水工事を行う予定としており、また、周辺の下水道工事に入ると聞いている。昨年度は地震直後、公民館が地震対応の被災相談窓口になり、事業の回数の短縮はあった。今年度は、建物の被害はそれほどないので、事業への影響は今のところないが、幼児期の講座を開催する時間帯は、屋上防水工事を止めてくれるようお願いしている。(曾野木)

○亀田地区公民館の事業番号1番「コミュニティ・コーディネーター育成講座」楽しく学ぶ防災体験について、参加者が幼児から中学生と幅広いが、実際の参加者はどんな感じであったか。また、参加人数も40人の募集に対して少なかったのはなぜか。

→40人定員で募集したが、開催時期も12月と遅くなってしまったことと、子ども対象で保護者も参加可能としたことで、当日体調が悪く欠席された子どもがいたことで、16名の応募があったが、保護者も欠席となり12名の参加になった。(亀田)

○防災は、忘れたところにやってくるというか、企画を打ち続けることが大切であるので、今後もよろしくお願ひしたい。

○各公民館で学校との連携事業を進められていて素晴らしいと思う。先程、横越地区公民館の館長から、中学校や小学校との連携が課題で、公民館が学校へ出かけていくことが運営の方針であることをお聞きし素晴らしいと思う。当校も資料の中で、昨年度2回公民館と共同で事業をさせていただいて、2回目はスマートフォン講座をソフトバンクの方を講師にボランティア室で行った。来ていただいた方に学校の授業のボランティア協力を呼び掛けることで、学校もうまみがあるwin-winの関係で共催できたと思っている。そこで江南区には小学校が10ヶ校、中学校が6ヶ校ある。資料を見ると、名前があがっている学校もあるし、あがっていない学校もある。公民館として、今後学校連携事業をやっていきたいことがあればお聞きしたい。

→学校連携事業について、以前は丸山小学校ともやっていたと聞いている。各学校の地域教育コーディネーターからお話があれば、協力したいと考えており、こちらから積極的にお話しさせていくと逆に手が回らなくなるので、バランスを見ながら対応したいと思う。大淵小学校の地域教育コーディネーターの方は熱心で、当館の担当と色々やり取りしているが、折角学校のボランティア室を利用させていただいているので、地域の方に学校の子どもの様子を見ていただくことも重要と担当に話をしている。事業番号12番の家庭教育講演会では、学校の方から要請があれば、講師を紹介するとして、今年も亀田東小学校からお話をいただいて、県警の方に連絡させていただいて7月にSNSの講演会を行っており、いつでも協力体制をとっている。(亀田)

→曾野木地区公民館も亀田と同様に学校の地域教育コーディネーターから要望があればお金はないが協力するスタンスで取り組んでいる。曾野木・両川の地域教育コーディネーターの方も積極的な活動していただいているので、曾野木地区公民館の人員は3名と他館に比べ少ないが、要望があれば相談にのっていききたい。(曾野木)

→横越地区公民館は、エリアとして横越中と横越小ということであるが、横越地区公民館は丸山小学校も近いということで事業チラシを配布している。横越小学校との連携については、前任や後任の校長先生と話しをさせていただいたり、コミュニティスクールの学校運営協議会などでも話をさせていただいている。学校の課題をお聞きしたりしているが、具体的に「子ども公民館」と言って、学校の昼休みの場を使ってやらせていただいたり、小学2年生が九九を覚えるのに地域の方の力を借りたいということで協力したりしている。公民館だよりを年4回発行しているが、秋号では、横越小の校長にインタビューした記事を掲載させていただく予定で、そのような形で学校と地域、公民館に親近感がわくようにアプローチしている。中学校の方は課題として、学力やいじめの問題などがあつたりするが、色々な話をする中で、子どもたちがテスト前に勉強する場として、この9月から学習ルームを開放しようかと思っている。

(横越)

○大淵小学校でも今年、亀田縞で小物を作る事業が動いており、そこに集まった方に、5年生のミシンを使うときにミシンボランティアとして協力してもらおうと思っている

る。また、校長会を代表してきているので、学校連携事業を校長会でPRしていきたいと思う。

～事業計画について～

- 亀田地区公民館の事業番号18番「江南区文化会館（亀田地区公民館）ミステリーツアー」はどのようにやるのか。

→昨年度、曾野木地区公民館で行っている「きもだめし」を亀田でもやってもらいたいと運営審議会でご意見をいただき、それを受けて計画した。会場はこの文化会館で月1回の休館日を利用し、様々な諸条件の許可を得てミステリーツアーを計画。当日は、館内を暗くし、2人1組でペンライトと地図をもって館内の郷土資料館やホール、ホールのバックヤードなどを回り、ポイントでお札を取ってくる形で考えている。曾野木地区公民館の話を知ると、子どもたちは脅かすと足が動かなくなるようなので、対象を亀田地区の小学4年生以上に絞り募集している。（亀田）

- 「江南区文化会館（亀田地区公民館）ミステリーツアー」の案内が来ないまま始まったようだが、メ切りが7月25日なのでPTAグループLINEで回したが、学校の安心メールで流せたらもっと参加者が増えると思うがどうか。

→メール配信に関しては、学校に希望を確認し、亀田西小学校は、小学4年～6年生向けに案内をメール配信。その他の早通小学校、亀田小学校、亀田東小学校は、チラシをクラスごとに分けて配布した。（亀田）

- 「かめだ子どもフェスティバル」について、去年は3チームのみ参加ということであったが、今年はどうような募集方法をとっているか。

→先週、亀田地区の中学校の部活用に要項を送付。また、小・中学校に全児童・生徒に要項をメール配信するようお願いした。それと昨年度参加した3チームには要項を郵送している。（亀田）

- 様々な魅力的な事業があるが、少年を対象とした事業は小学生が中心で、中高生を対象とした事業が少ないと感じている。なかなか参加も難しいと思うが、公民館に足を運ぶ子どもたちもいると思うので、是非中・高生を対象とした事業・講座を企画してもらいたい。中学校の部活動の地域移行もあり、江南区の中学校の部活動は令和8年度にはほとんどなくなる。地域クラブや公民館の中の活動をしていただけるとありがたい。講座の案内を地域の方に知っていただけるようにSNSを活用したり、色々な形で情報発信していただきたい。

→先程の「かめだ子どもフェスティバル」について、今年は、高校生まで枠を広げ、新潟向陽高校、新潟明訓高校にも要項を送付している。また、新潟市のLINEを活用して案内したり、アピタや公共施設にチラシを置いたりしている。申込方法も若い人向けの場合は二次元バーコードをチラシに入れたり、年配の方向けであれば電話での受付とか工夫している。（亀田）

○横越地区公民館の人権の子ども編、おとな編について、こども条例がなかなか浸透していない。市報や中学校が ZOOM でやりとりしたりして広報は進めているが、子どもの人権について理解を進める上でこども条例の子ども向けのパンフレットもあるので、使っていただけるとありがたい。

→こども条例について、我々職員も認識などがまちまちである状況。活用等を考えていきたい。(横越)

○8月から万代市民会館の4階にこの相談室が設けられることが広報されると思うが、専門の相談員と弁護士も配置されると思うので情報が共有されると良いと思う。

○区の自治協議会と各地区のコミ協で歴史文化を入れた「まち歩きマップ」を作った。現在横越、曾野木、両川で作成し、それぞれ阿賀野川、信濃川、小阿賀野川の川シリーズで作ったので、公民館事業などで活用してもらいたい。

○各公民館でゆりかご学級が開催されているが、児童館の方でもBP講座と言って、生後2ヶ月から5ヶ月の第1子のお子さんとお母さんを対象にした全4回のプログラムを年4回行っている。ゆりかご学級と似ている内容ではあるが、このBPプログラムが、江南区以外の区では予算があり、区から各児童館へ委託されて実施している。江南区はコロナ前までは予算が出ていたが、亀田東児童館では自主事業で開催している。BPプログラムについて、他区も今後予算がつかない可能性があるという話があり、公民館のゆりかご学級があるから、BPプログラムが必要ないという話も聞こえてきている。また、逆にBPプログラムがあるからゆりかご学級が必要ないという話も聞こえてきている。児童館としては、お母さんたちの受け皿が多くあると、吸い上げることができるかなと思っている。公民館と児童館と一緒にできると良いと思っていた。今後、ゆりかご学級がなくなったりすることがあるのか確認させていただきたい。

→BPプログラムとゆりかごの統合みたいな話は聞いている。BPプログラムは、全部のプログラムをやらないといけないという風に聞いており、BPプログラムの要素を入れながらゆりかご学級を区健康福祉課と一緒に来年度からやっていく方向は示されている。ゆりかご学級は新潟市の歴史ある事業でこれまである程度内容を決めてやってきたが、区によって参加者が少ないなど実情が違うので、今後同じ形でやっていくのは難しいということで、公民館の中でも見直しをかけている。今までは年4回で3ヶ月毎にすべてのお母さんが参加できる形をとっていたが、区によって対象月齢を4ヶ月に延ばすなどして昨年度から対応している。来年度からは、今話のあったBPプログラムを区健康福祉課と連携しながら、またお父さんが参加できる機会を設ける、お子さんと一緒に参加出来るなど、次年度以降見直しをかけながら進めていく予定になっている。(亀田)

○ゆりかご学級は保育がつき、母子別室で事業ができるところがいい所なのかなと思う。今後も続けてもらいたい。お子様の対象月齢も3ヶ月くらいしかないので、かなり限られた人数しか来ないと思っていた。ゆりかごの特別編を行うときに、対象者をゆりかごに参加された方に限定すると、育休は1年しかとっていない場合が多いので、その前までに開催しないと職場復帰に向けて忙しくなるので配慮が必要だと思う。あと子どもの

人権のことで参考になるかわからないが、イオンで子どもたちの言いたいことが書いてあるポスターが貼ってあった。人権になると敷居が高くなるので、子どもの意見を書いてもらうのも一つの方法かなと思う。公民館に地域によっては遠くて行けない方に、小学校とか中学校で出前講座などをしていただき、参加者が普段学校へ行くことがない人でも、学校へ行くと子どもたちが挨拶してくれるなど良いこともある。横越の昼休みに行く公民館についても結果を教えてもらいたい。公民館で中学生が試験前に集まれる横越地区公民館の事業番号 13 番の「横越っ子テスト前頑張り一む」では、中学生が集まって話せる場所がないから良いことだと思う。

○部活動の地域移行ということで、この 4 月に教育委員会内に地域移行の推進室が出来たが、圧倒的に広報活動が足りていない現状がある。関係者に説明をいただいたが、その中で保護者の方は、学校は手伝ってくれないのかとの意見があったが、実際は保護者がやっていかなければいけない内容なのに、学校がやってくれると思っている人が多く、今の小学 5・6 年生が中学校に上がった時に更に問題となってくると思う。亀田中学校では、来年度から部活動の募集はしないようなので、区としてさらにスピードアップして広報活動を行っていく必要がある。公民館を使い、区の中で先生を交えて相談出来たらよい。

○部活動の地域移行は、ものすごく問題が出てくると思う。指導者の問題、経費の問題、学校教育の中から離れることによる子どもの家庭個々の差の問題。移行後、保護者が送迎するとか、負担が増えることについて、本当にできるのかどうか。学校が動いてくれると思っている方が多いが、もう移行することは決まっているので、公民館も協力していかないといけないのではないかな。

○新潟市のゆりかご学級は母子分離で素晴らしい取り組みである。BP のように子どもと一緒に育ちを考えていくものもある。似ているところもあるけれど、それぞれが役割を果たしていくが、それにはお金がかかるという点で、新潟市がそこにどれだけお金を出せるか、予算が減額されていく中で何とかここを守っていく。でもそこにお金をつぎ込むと中高生の問題であったり、中高齢者を対象の講座などにお金をつけることができなくなる。皆で理解しながら進めていくしかないと思う。

～公の施設に係る受益者負担の見直しについて～

○特に意見なし

～今後の運営審議会について～

※前回第 8 期の運営審議会でも議論があったが、市の方針として、各区から委員を何名か選出し、運営審議会を市で一つの運営審議会に一本化する予定。また、現在の公民館活動協力員には事業計画等に意見等の場を設ける形で進めようと、中央公民館を中心に現在館長会議等で議論している。運営審議会を一本化することで期待すること、また、懸念されることなどの意見を伺いたい。(亀田)

○中央に統一されるということで、運営審議会に出られる方は、他区の情報を知ることができメリットになると思う。反対に出席できない場合に、子育て世代の意見が通らなくなったり、反映されない場合があることが懸念される。また中央区寄りの意見が強くな

ることが懸念される。

○審議会が統一されることで、その分の予算が公民館事業費等に回せることができればよいと思う。また、講座に参加された方たちにも意見を聞いたりする場も必要となってくるのではないかな。

○予算を効率的に動かして、画一的にならず、各地域での特色が薄まらなければいいなと思う。

○公民館から考えれば、協力員だけの意見を聞くということであると意見が狭くなる。色々な立場の方と公民館の職員が話し合えた方がよい。確かに他の地区のところがわかるメリットはあるが、公民館はその地域にあってこそという独自性があるので、その部分が保てるような運営審議会であってほしい。新潟市ですべて集約されるのではなく、意見が広くいきわたるようしてもらいたい。